



道田 豊

海洋研究所 教授  
国際沿岸海洋研究センター長

## キャンパス散歩

# 海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター (岩手県大槌町)

**東** 北新幹線を新花巻で降りて釜石線に乗り換え、ローカル列車に揺られて約2時間、三陸リアス式海岸のほぼ中央に位置する岩手県大槌町に着きます。駅前から車で数分、右手漁港の向こうに大槌湾のシンボル蓬莱島が見えると、ほどなく国際沿岸海洋研究センター(写真1)に到着です。大槌町と釜石市にまたがる大槌湾(写真2)の北岸、大槌町赤浜にある当センターは、海洋研究所附属の「大槌臨海研究センター」として1973年に設立されました。2003年には沿岸海洋研究の国際拠点を目指して「国際沿岸海洋研究センター」に拡充改組され、全国共同利用研究施設として年間利用者が5000人/日に及ぶ活発な研究活動を繰り広げています。

目の前に大槌湾が広がり、船で15分も走れば太平洋です。沿岸域をフィールドとする者には非常に恵まれた研究環境です。海が静かなら、当センター前から伸びる突堤の先、蓬莱島(写真3)まで徒歩で渡ることができます。「ひょっこりひょうたん島」のモデルとされる島は各地にあります。原作者の井上ひさし氏は釜石市に縁が深く、地元ではここが最有力と言われ、私もそう思っています。

3階建の研究実験棟(写真4)に入ると、玄関口ビーに大槌湾の海底地形模型、見学者向け水槽、海水温や気象データのモニター、研究内容の説明パネルなどが配置され、研究活動の概要を紹介しています。また、資料室には大槌湾に生息する海洋生物などの貴重な標本の一部を展示しています(写真5)。各階の各種実験室には、電子顕微鏡を含む顕微鏡類、質量分析装置をはじめとする分析機器などが備えられています。培養室、冷凍室、低温室、RI実験室などもあります。これらは当センター所属の教職員や大学院生のみならず、国内外からさまざまな研究目的で訪れる研究者に利用されています(写真6)。

約50人収容可能な会議室(写真7)では、海洋に関する多様な研究集会在毎年行われています。そのほか各種の研究打ち合わせや、研修・実習の講義にも使われます。最近ここに遠隔会議システムが導入され、東京中野の

海洋研究所とネットワーク経由での会議、あるいは東京で行われる講義の聴講などが可能になりました。

敷地内には大小30面の屋外実験水槽が並びます(写真8)。これらの水槽には、淡水のほか、地先約200mの海中から汲み上げた海水をろ過して供給できます。キャンパスと岸壁を隔てる津波防潮堤(写真9)を抜けて海側に出ると、調査船の停泊する係船場がすぐ目の前です。この防潮堤の高さは、過去の津波による最高水位を想定しているそうです。

従って、それを上回らない限り、津波が防潮堤を超えて敷地内に来ることはないはずですが、当地を訪問中に津波警報が発令された場合は、安全のため速やかに指定の避難所、またはできるだけ高い場所に避難してください。

調査船は当センター設備の主力です。弥生、チャレンジャー二世、同三世の3隻を運用しています。このうち「弥生」(12トン)は、老朽化した旧船に代わって2005年に建造され、高速運航性能と最新鋭の設備を誇っています(写真10)。乗組員3名を含め20人まで乗船可能で、大槌湾外の観測もできる多目的調査船です。主として湾内の調査に用いる「チャレンジャー」(0.7トン)とともに、共同利用研究のためにフル回転しています(写真11)。

敷地内には、共同利用研究や研究集会上に訪れる研究者のための宿泊棟もあります(写真12)。2人部屋を標準として20名程度の宿泊が可能です。近年は利用者が増え、研究者が多数訪れる時期には需要を満たせないこともあります。宿泊棟の奥に回ると、裏山に上がる階段があります。標高40mほどまで登った後、さらに先に行くと小さな浜に出ます(写真13)。ここも敷地内です。岩場の多いこの付近では、狭いながらも貴重な砂浜で、当センターの住人や何度も訪れる人には穴場として知られています。虫や動物に注意のうえ散歩してみたいかがでしょう。運が良ければカモシカに出会えるかもしれません。

ここでは地域に対する貢献にも力を入れています。2002年から開始した「海の日」の

一般公開は、今では地域の催しとしてすっかり定着し、たった1日の公開ですが来場者は1200人を数えます。実験棟や調査船など施設見学のほか、タッチプール、海藻押し葉づくり、講演会など、大人も子供も楽しめるよう工夫し、センター教職員を挙げてこの行事に取り組んでいます。子供たちの生き生きとした目の輝きを見るにつけ、研究成果の還元、次の時代を担う世代に対する科学教育に貢献できているものと思います(写真14)。また、町内の祭り際には踊りの行列がセンター玄関前にも練り歩く(写真15)など、地域社会の一員となっています。

東京からは時間距離が遠い場所ですが、一度来訪した研究者はリピーターになることが多く、それだけ魅力のある研究施設であると自負しています。ぜひ見学にお越しください。教職員一同、三陸の海の幸と共に迎えします。

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13	14	15

1. 国際沿岸海洋研究センター正門
2. 空から見た大槌湾。右下突堤の付け根にセンター
3. 大槌湾のシンボル蓬莱島(ほうらいじま)。ひょっこりひょうたん島のモデルか?
4. 研究実験棟(屋上右奥の塔は風力発電装置。サステイナブルキャンパスの一端を担う)
5. 資料室
6. 実験室
7. 会議室
8. 屋外実験水槽群
9. 高さ4.6mの津波防潮堤。手前が海側、奥にセンターの研究実験棟が見える
10. 新鋭調査船「弥生」
11. 調査船「チャレンジャー三世」
12. 宿泊棟
13. 研究実験用階段の行きつく先はポケットビーチ
14. 「海の日」一般公開風景
15. 地元赤浜の祭りでセンターを訪れた踊りの行列

